

会 議 録

会 議 名	令和7年度スポーツによるまちづくり推進委員会（第1回）	
開 催 日 時	令和7年7月30日（水） 18時00分～19時30分	
開 催 場 所	市役所3階 大会議室	
出 席 者	平中 政明、藤井 眞澄、篠原 由紀恵、岩間 英昭、 林 絹江、西村 裕文、高来 英行、服部 正美、 宮川 力雄、戸坂 緑、宇野 直士、宇家 宏治、 富田 輝美	委 員 数 14人 出席者数 13人 欠席者数 1人
欠 席 者	中尾 恒一朗	
事務担当課 及び職員	協創部文化スポーツ推進課 文化スポーツ推進課：原田課長、桑原主幹、田島係長、吹金原	
会 議 次 第	1 辞令交付 2 文化スポーツ推進課長挨拶 3 自己紹介 4 委員長、副委員長選出 5 報告事項 （1）現計画の概要について （2）現計画期間におけるスポーツ振興施策の振り返りについて 6 議題 （1）第二次山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画（仮称） 策定スケジュールについて （2）第二次山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画（仮称） 計画骨子について （3）アンケートの実施について 7 その他	
事務局	次第4 委員長、副委員長選出 委員の互選により 委員長は平中 政明委員に決定。 副委員長は藤井 眞澄委員を指名し、決定。	
委員	次第5 報告事項 （1）現計画の概要について 平成28年3月に策定した「山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画（2016～2025）」をもとに説明。 現計画のアンケートは平成27年度に行われたものだが、この後にアンケートは実施していないのか。	

事務局	アンケートは実施していない。
委員	人財育成のところで、市のスポーツ推進委員等のスポーツ振興に関係する方の養成はどのようなになっているか。
事務局	市スポーツ推進委員については、各小学校区の地域運営協議会等から推薦をいただいている。任期は2年で、現状は定員である25名が、スポーツ大会の運営やニュースポーツ等の出前講座で講師として活動されている。
委員	障がい者スポーツの推進について、ボールさえ触ったことのない障がいのある方でも、スポーツに触れ合える、触れ合える場所を提供できるような山陽小野田市であってほしいと思っている。そのような場を提供するにあたって、レクリエーション協会等の人材を活用して、機会の拡充に力を入れていただきたい。
事務局	本意見を含めて、計画の改訂に向け検討していく。
事務局	（２）現計画期間におけるスポーツ振興施策の振り返りについて 資料１に沿って説明。
委員	学校等の体育館を利用している団体があると思うが、この数も入れなければ全体的な人数等の把握ができないと思うが、いかがか。
事務局	資料１については、本課が所管の体育施設の数字となっているが、計画には学校施設やコミュニティ体育館の利用実績が含まれるものになると考えている。
事務局	次第６ 議題 （１）第二次山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画（仮称）策定スケジュールについて 資料２に沿って説明。 質問なし （２）第二次山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画（仮称）計画骨子について 資料３に沿って説明。

委員	計画骨子案の第2章スポーツをとりまく環境の変化において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大というのは大きな動きであったと思う。 この動きを受けて、個人でスポーツをすることを好むというような傾向があるといった結果が、今後のアンケート結果と10年前の結果を比較することでわかると思うので、そのような結果がでてくれば市民のスポーツの嗜好の変化について計画で論じられて良いのではないかと考える。また、この変化を受けて、今後整備していかなければならない公共スポーツ施設の環境も変わってくるのではないかとと思うので、検討いただきたい。
事務局	本意見を踏まえて、アンケートの実施に当たっては市民のスポーツ嗜好の変化に注視して、比較・分析を行っていく。
委員	第5章施策推進のための取組の基本方針3「人財」の育成に関して、旧山陽町の地区（厚狭、厚陽、出合）では体育委員を各自治会で選出している。これと同じように旧小野田市の地区でも自治会ごとに体育委員を選出すれば地域でスポーツをするという機運が高まるのではないかと。 また、市全体でスポーツに関する事業を実施するよりは、体育振興協議会のような団体が各地区にあれば、まずは地域でいろいろなスポーツをすることで、多少はスポーツをする人が増えるのではないかと。
事務局	現在、小学校区の各地区にはRMO（地域運営組織）が形成されており、体育振興協議会も形態が変わりつつあると認識している。地域運営組織の所管課である市民活動推進課とも連携を図りながら情報収集に努めていく。
委員	スポーツの推進の観点からの意見となるが、例えば児童館に通う学童保育の子どもは、スポ少に入りたいと思っても送迎がないから参加できない等、スポーツをする前にいろいろな制約がある。本当にスポーツをしたいと思っている人にとって、ぱっと手が届くような環境になることが良いと考える。
事務局	アンケートにおいてスポーツを始めるための条件や、施設に関する事項等に触れており、スポーツの環境に関する設問があるので、そこで情報を把握していきたい。
委員	第2章スポーツをとりまく環境の変化について、現在、学校において課題となっているのが熱中症への対応である。熱中症の予防として、休み時間に外で遊ばないや、体育の制限をするなど、水泳でさえも熱中症の

委員	危険性がある場合は中止するというようなこともある。次計画にどのように論じられるかはわからないが、熱中症への対策は課題であると考えている。
事務局	熱中症への対策としては、国や県の通知などにより情報を把握している。次計画にどのような反映の仕方になるか、現時点ではわからないが、重要な問題として認識している。
委員	第2章の1（2）学校の部活動改革の推進という言葉については、少し違和感があるが上位計画等から引用しているのか。また、現計画では第5章の記載内容として、現状と課題を示し、取り組む方向性を記載する構成となっている。報告事項の際に、現計画期間の数値に関する実績を報告されたが、同じことを繰り返さないために第5章のそれぞれの項目について、しっかりと振り返りをして次の施策を考えていくようお願いしたい。
事務局	学校の部活動改革の推進という言葉については、国の第3次スポーツ基本計画等を参考に、現状、国が発出している最新の文言を採用したいと考えているため、必要があれば修正させていただく。 現計画の振り返りについては、委員のおっしゃる通りである。予算の関係で実施できなかった施策もあると認識している。また、本推進委員会を数年、実施できていなかったところもあるので、今後においてはスケジュール案で示したとおり、年に2回程度は計画に基づいた実績の管理や計画の定期的な見直しをしていく。 （3）アンケートの実施について 資料4に沿って説明。
委員	小学生用のアンケートの質問項目に、スポーツが好きかという設問がないが、何か意図があるのか。
事務局	抜けていたので、設問を追加する。
委員	小学生にただスポーツが好きかと尋ねるよりは、スポーツや運動など体を動かすことが好きかを問うほうが良いのではないかと意識が高くなり、競技スポーツと受け取ってしまい、競技スポーツはできないと感じてしまうのではないかと。

事務局	ご指摘のとおり、スポーツとだけ記載するのではなく、体を動かすという表現を入れた方が設問として好ましいと思うので、ほかの委員の皆様の意見を伺い対応したい。
委員長	この設問の表現に関する、ほかの委員の意見はいかがか。
委員	小学生だけでなく大人も同じように感じてしまうのではないかと思うので、小学生用のアンケートの表現を変えるならば、全てのアンケートの表現を統一したほうが良いのではないか。
委員	問1の性別を問う設問について選択肢にその他があるが、子どもが回答する場合、困惑するのではないか。
委員	小学生でも性教育や人権問題等、勉強されていると思うので大丈夫ではないか。
事務局	市としてはLGBTQ等に対する配慮をしつつアンケートを行いたいと考えていることから、その他という選択肢を設けており、このままの選択肢でいきたい。
委員	3点意見がある。まず1点目、スポーツが好きかを問う質問のところはまだ結論がでていないが、私の意見としては、どちらでも良いと思うが、表現を統一する方が良いというのは同意見である。また、どちらの表現にするかは、このアンケートをどのように使うかによると思う。スポーツと限定して、アンケート結果を活用するなら、そのように質問をしなければならないと考える。2点目、アンケートの調査方法は紙だけでなく二次元コード等からウェブで回答する方法でも良いかと思う。3点目、中学生のアンケートの問4、5について、10年前の当時はテレビやゲームというのが主流であったのだろうが、今頃はテレビもスマホで見る時代になっている。また、子どもたちはテレビ番組を見ずにYouTube等を見る時代になっていると思う。学校のアンケートでも、「平日にどのくらいメディア（テレビ、スマホ、ゲーム等）を利用しますか」というような聞き方をしている。この聞き方が良いかはわからないし、過去のアンケート結果と比較をするのであれば、同じ項目にする必要があるのではとも思うので、こだわりはないが参考までに意見する。
事務局	1点目について、本計画においてスポーツというものを明確に、野球やサッカーといった競技種目にとらわれず、広く体を動かすということを

事務局	含めてスポーツと捉えており、これはスポーツ基本法の内容に合わせたものである。委員の皆様から意見された内容を鑑み、両方書いた方が良くと思うので「スポーツ（体を動かすこと）」というような表現で考えていきたい。２点目のアンケート方法については、紙だけでなく二次元コード等でのウェブによる方法も対応していく。３点目のメディア、テレビ、スマホ等の表現は委員の意見のとおり、回答者が質問内容を捉えやすいものにしたいと考える。このため、小中学生用アンケートの問４、５を統合して、「メディアをどの程度利用するか」というような表現で整理していきたい。
委員	山陽小野田市のスポーツ施設のあり方に関する質問で、問２２、２４が同様の内容になっている。問２４は自由記述形式となっているが、問２２の選択肢で回答しているので、回答が得にくいのではないかと。そして、１０年前のアンケート結果で問２２は無回答の方の割合が多い。この問の選択肢は、施設の統廃合か本格的な競技場の新設、既存施設の活用となっており、この選択肢だけでは市民の多様なニーズを捉えきれない可能性があるため、もう少し細かな選択肢を加えることで市民の現実的な意見を拾い上げることができるのではないかと。
事務局	問２２については、選択肢を増やして内容を検討する。問２４については、スポーツ活動に関する意見をより広く記載いただくため、質問内容を変更し対応する。
委員	問１１のあなたは、どのようなスポーツをしているかという問のところで、オリンピック種目にもなっているスケボーを中高生等が、駐車場や道路でやっている姿をよく見かける。このような場合は、堂々とスポーツをしていると言えるのか。
事務局	スケボーについて、スポーツをしていると言うことはできると思うが、スポーツをする場所等についてＴＰＯを適切に選ぶ必要がある。
事務局	７ その他 今後の予定について、議題で委員の皆様にお諮りした内容、意見を盛り込んでそれぞれの議案を修正し、お示しする。次回の会議は１１月に開催を予定しており、その際にはアンケートの集計結果と結果を踏まえたスポーツによるまちづくり推進計画の素案を事務局で作成し、提示させていただきます。 ～終了～